

知事広聴「平太さんと語ろう」 記録

【日時】平成26年5月30日（金）13時30分～15時30分

【会場】袋井市月見の里遊館 1階 うさぎホール

1 出席者

- ・ 発言者 袋井市・森町において様々な分野で活躍されている方
6名（男性3名、女性3名）
- ・ 傍聴者 146人

2 発言意見

	項 目	頁
発言者 1	地域における食育教育への取組 後継者不足に対する要望	2
2	障害児支援事業の活動報告	4
3	レールクリーン事業の活動報告	10
4	学生フォーミュラ大会の認知度の向上	11
5	誉富士を始めとする静岡県の酒づくり 中山間地域の活性化	16
6	茶文化促進への展望と行政への要望	18
4	エコパスタジアムに係る県への要望	25
2	袋井市政への感謝	25
傍聴者 1	静岡県の義務教育にかかる費用について	26
2	富士山静岡空港の名称に係る提言	26

< 県知事挨拶 >

皆様、こんにちは。きょうはこの広聴会に多数御参加賜りましてありがとうございます。

特に公務のお忙しい中、袋井市長様、また森町町長様、そして県会議員の先生方、そして元の県会議員の副議長をされた先生のお姿もごございますけれども、袋井、森町の皆様、ようこそお越しくださいました。これは広聴会、聴く方ですね。広報と広聴ということで、県民の皆様の意見を直接聞くという機会でございます。そして年間に大体5回ぐらいやっておりますので、これもう5年やっているのです、優に20回を超えるこういう会をやっております。

また最初の4年間は、ここらあたりですと来れるんですけれども、石廊崎であるとか水窪だとか井川の奥であるとか、ともかく湖西から小山町、南は石廊崎から遠いところまで、なかなか回り切れないというか、行くだけが仕事になるところがございまして、ですから今は移動知事室といまして、この西部地域政策局長なんですけれども、この人は実は今局長室はないんですよ。私の知事室になっているわけです。

移動知事室といまして、ですから昨晚もこちらに泊まっているわけです。この磐田だとか菊川だとか袋井だとか御前崎だとか、このあたりの地元の人たちとお目にかかって御意見を聞いたり、我々ができることについてアドバイスをいただいたりしている移動知事室の中で、たまたまこの近くに来るといことなので、じゃ広聴会も兼ねてということになった次第でございます。

今、西部地域政策局長が言いましたように、地域の、袋井と森町の方でありますけれども、リーダーの方たちの御意見を聞き、できることならすぐ決めてしまうと、そういうことで、ここで聞いたことはすべてやれることはやるということで、もう皆様方が言い放しにならないように、できることはもうすぐ決めて、もしできないことは後からしっかり御返事申し上げて、皆様のために役に立つというような、そういう会でございます。単に議論だけをする、そういう会にはなっておりません。それがこれまでやってきた実績でございまして、今回もいろいろと建設的な、特に袋井や森町のすばらしい地域風土のために何かできることがあるならばと思ってやってまいりました。何卒よろしくお願いを申し上げます。

< 発言者 1 >

ただいま紹介いただきました森町の方でクラウンメロンを栽培しています発言者 1 と申

します。私の方からは、J A森町青年部の食育教育の取組と農業の担い手不足ということで、農業者の立場からお話をさせていただきます。

まず森町の農業と申しますとお茶、お米、レタス、トウモロコシ、次郎柿、メロンなど、非常に多岐にわたります。またこれは余談でございますが、トウモロコシの直販もきょうから始まっていると聞いておりますので、会場にいらっしゃった皆さんも、ぜひ1把買って味わってみてください。

また農地の活用においても、1枚の田んぼで冬のレタスから始まり、初夏のトウモロコシ、秋のお米と、1年間に栽培する水田3倍活用農法を確立しています。また、稲をつくり、その稲わらを牛の餌として活用し、糞を堆肥化して農地に戻すという地域循環型農業にも取り組んでいます。

このような環境を生かしまして、J A森町青年部では平成12年より食の教育の一環としまして、また次世代の農業後継者の育成を目的としまして、町内小学校5校の親子を対象に農業体験学習「森町農業小学校」を開催しています。普通、農業体験学習と申しますと、種まきと収穫だけの、いわゆるいいとこ取りの体験学習で終わってしまいますが、私たちは年間を通じて播種、管理、収穫、調整、販売、又は加工といった一連の作業を体験してもらい、本当の意味で地元農業と食への理解を深めてもらうというスタンスで行っています。

これまでに茶摘みと手もみ、茶そば打ち体験を初め、トウモロコシ、スイカの栽培と販売体験など、様々な活動を行っています。販売体験では、子供たちに自信を持って販売してもらうため、今までの栽培内容を確認してもらい、自分たちが栽培した農産物を味わってもらうことから始め、自分たちが栽培したものが安全・安心でおいしいということを確かめてもらってから販売してもらっています。また話題性にも考慮し、今地元で深刻な農産物の鳥獣被害について、イノシシを取り上げてその被害の現実をみんなで勉強するなどの授業を行っております。

いろいろ試行錯誤しながら活動していますが、こういった工夫が功を奏し、毎年50人前後の親子の皆さんに参加してもらっており、今後も森町のよき宣伝マン、よき農業後継者になってくれると信じて続けていきたいと思っております。また行政の皆様にも、学校での食の教育、また学校給食での地産地消の取組を更に進めていただけるよう、お願いいたします。

次に、後継者不足・地域農業者対策についてですが、現在農業の経営を取り巻く環境が厳しさを増す中、後継者となり得る人材が就農しにくい状況にあります。また、農業従事

者の高齢化、燃料費の高騰、生産資材の価格高騰により、離農する農家も少なくありません。まずは現役世代の私たちが安定的な農業経営を確立し、魅力ある農業を実践することが担い手の農業参入を促進する大前提となりますが、土地も技術もない新規就農者にとっては、今県が行っております「がんばる新農業人支援事業」も、長い目で見た継続を県の方にはお願いしたいと思えます。

まだまだ農業に対する課題は山積しておりますが、地域の皆様と自分たちと、いろんな人達と検討して解決をしていきたいと思っております。また、行政の皆様にも今まで以上の御指導をよろしくお願いいたします。

<発言者2>

よろしく申し上げます。ピチャカマジカは平成20年5月、袋井市で障害児を育てている4人の母親と、障害のある勤労青年が中心になってできたグループです。

ピチャカマジカとはスペイン語でドラえもののポケットという意味だそうです。ドラえもののポケットから次々と不思議な道具が出てくるように、障害のある子供たちにも新しい、楽しい体験をさせたい、子供のいいところを見つけて伸ばしたい。そして何よりも多くの人とつながり、生まれ育ったこの袋井で生きていきたいという思いから活動を始めました。

障害児との毎日は本当に生きにくいと思うことばかりです。スーパーや病院、電車やバスの中などで「しつけがなっていない」と怒鳴られたり、公園や子育て支援センターへ行っても、母子ともに孤立したり、幼稚園や保育園に入園できるのか、地域の小学校に入れるのかと毎日悩み、悲しみに押し潰されそうになります。特に子供が小さいときには本当に大変です。

辛かった幼少期の経験から、多くの障害児の母は無意識のうちに必死で子供を守ろうとするあまり、社会や地域と関わる機会がないまま、親も子も年をとっていきます。しかし親が子供を守る時期もそう長くはありません。差別はされても、理解はされない、理解されにくい障害者。それでも私たちは子供の未来をあきらめてはいません。障害を乗り越えることは決してできませんが、何か打ち込めるものや、人間関係も含め、心の支えになってくれるものを子供に残すことができれば、今現在なかなか表に出るのをためらっている障害児とその家族が、地域や人とつながっていくことができるのではないかと考えています。どんなに障害が重い子だって、きらきらした何かを隠し持っています。私たちは専

門家や御近所さんの力を借りながらも、これからもきらきら探しをしていこうと考えています。

まず私たちの活動は、近所のカメラ屋さんに声をかけたことから始まり、建築士さん、建築士さんの友達のアーティスト、静岡文芸大の学生さん、音楽家などというように、過去4年間の活動で私たちのつながりはどんどん広がっています。地域の人とつながることで障害の特性や子供の顔を知ってもらう。障害があっても、あの子は普通の子よりちょっとゆっくり話せばわかるなど、地域の人たちの障害者に対する考え方や接し方も、少しずつではありますが、いい方向に変わってきていると思います。

今までの私たちの活動として、障害児や障害者のイメージを打ち破るべく、枠に当てはまらない額をつくったり、この月見の里の玄関にあるんですけども、カフェのオーナーさんの力を借りて、苦手な野菜を克服したり、福島の子供たちと同じ日、同じ時間に同じワークショップをやって福島の子供を応援したり、障害のない男の子も含めてなんですけれども、高校生や大学生、大学院生の男子の家で梅の仕事をする「男梅」というイベントをやったりしてきました。

去年はご縁があって法多山の和尚様からお話をいただき、県の事業である「ふじのくに子ども芸術大学」を開催することができました。神戸の音楽家をお呼びし、参加者は袋井市だけでなく、浜松市や静岡市、遠くは富士市からも参加者が集まり、楽しい音遊びを開催しました。ただの主婦のグループにこのようなチャンスをいただき、本当に感謝しています。

過去の4年間、袋井市から助成金をいただき、いろいろな出会い、人とのつながり、たくさんの方のチャンスをいただきました。ことしは企業から助成金をいただき、夏休みには名古屋のソースの会社が私たちの活動に賛同してくださり、ケチャップをつくる指導のためにわざわざ名古屋から会社の方が来てくださったりします。

とにかく地元から始めたつながりがいろいろなところに大きく今広がっている。本当に子供たちも大人も楽しんで活動をさせていただいています。これからもどんどんこのように活動の輪を広げていきたいと思っています。

障害児を持つ親として県や市町にお願いしたいことはたくさんあるんですけども、まず障害者・障害児の居場所がないということです。子育て支援センターでは相談なんかも受けてくださったり、それに袋井市はすべての小学校に支援級があって、本当に親としてはありがたいんですけども、やはり子供とか、大人の居場所もなかなかないのが現状で

す。難しいとは思いますが、居場所があるといいなというふうに感じています。

それから私は東北の出身なんですけれども、私の実家も被災しましたが、福祉避難所というものがあるのをそのときに知りました。障害がある方やお年寄り、医療ケアが必要な方たちが避難できるような福祉避難所というのが、静岡県にもあるというふうに伺いました。

でも、どこが福祉避難所なのか、どういうケアが受けられるのか、どういう障害がある人たちがそこに避難できるのかというようなことがはっきりわかるように、本当に静岡県は防災に関しては、どこの県よりも進んでいて、私の実家にも藤枝の警察、消防の方が真っ先に来てくださって、たくさんの命を助けていただきました。

ぜひ障害がある方やお年寄りのためにも、福祉避難所についてももう少しわかりやすい説明をしていただければと思います。よろしく願いいたします。御清聴ありがとうございました。

<県知事>

発言者1さんと発言者2さん、ありがとうございました。それぞれ人づくり、物づくりと、発言者1さんの方は農作物をつくるということで、ものづくりをされている。何と申しますか、第48回J A全国青年大会で最優秀賞を受賞されたと。そういう人でございます。ですからもう日本一の方なんです。

それで後継者のことを言われていますけれども、もう私が聞いていてすごいと思うのは、森町がいかに農作物に恵まれているというか、食材の王国であるか。もちろん発言者1さんもクラウンメロンをつくられているということでございます。

こうした柿にしる、クラウンメロンにしる、明日から販売されるトウモロコシにしる、これ皆非常に品質が高うございますので、農業芸術品と言われるような食べ物ですね。そして今TPPで問題になっておりますけれども、どうも価格だけではないということが皆さんに多く理解されるようになりまして、農作物というのは価格と品質からなると。その価格においてはなるほど、それだけ見てどちらがいいかわからなくても、品質では圧倒的に静岡県産の方が高い。いや、森町のもの中でも群を抜いているということではないかと思うんです。

ですから我々は品質で勝負ができるということで、それは一朝一夕につくり上げられてきたものではなくて、これまで本当に先人の工夫、例えば次郎柿1つとってもそうです。

れども、ああいう特殊なおいしい柿を、立派な柿を、皇室への献上品になるような柿を作り上げてきたのは、もう人間の工夫というものがあつたので、これ一朝一夕に追いつけるものではない。

そしてそれをつくり上げてきた景観を見れば、太田川があつて、田んぼや山に囲まれて、京都に並ぶような小京都というふうになっておりまして、京都は、例えば二条城の前にホテルがありますけれども、目障りで向こうが見えないということで、景観が台無しになっていますけれども、小国神社がある、あるいは森の石松さんがまつられている大洞院があるというふうなそういう名刹や古刹がありまして、そして素晴らしい食材がある。

新東名もあるし、スマートインターができ、すぐ行けるので、コンニャクもおいしいですし、今やもう来ても混雑して困っていると、何ていうぜいたくな悩みだと。森町の持っているポテンシャルというのはすごいと思いますよ。

ですから今、後継者と言われましたけれども、後継者をどのように励ますか、どのように勇気づけるか。これはJ A青年部、40歳になられるから卒業されるんでしょうけれども、そのような素晴らしい青年をつくってきたこれも森町のJ Aでありますから、これは本物のJ Aだと。そうした中で大地に根付いた人材をつくりたい、これが本当のJ Aだというふうに思います。

そして私どもも、例えばこの近くには磐田農業高等学校があるとか、ここにもお花がありますでしょう。実はこの西部地域政策局長も、本来の彼の部屋にはお花が飾ってあるんですよ。そこには磐田農業高等学校の学生さんが持ってきてくれているんです。ともかくそういうふうにして持ってきてくれている。

実は県庁の本館の正面にも、そのつい1年ほど前には古ぼけた時計しかなかったんですよ。そこに、石ばかりですから、腰板でそれを隠しまして、腰板は皆県産材です。そしてたらそこに壁を傷めないために富士山の写真を入れたら、すごい版画家が『日本のこころ』という富士山と桜を描いたものを県庁にくださったので、そこに飾ったんですよ。そしてたら静岡農業高等学校の青年たちが、その横にお花を置いてくれているんです。私はこういう磐田とか、あるいは静岡とか田方だとか、あるいは賀茂にも南伊豆の分校があります。そうした本当に実業をやっている青年たちはごまかしがききませんから、目に見えるものですから、ですからそういう後継者がそこにいるので、だれが先生か。じゃあその高校の先生だけか。違うというんです。今農業小学校ですか、なさっておられる発言者1さんが先生です。

昨日菊川の農家さんが、今 11 ヘクタールの田んぼを 1 ヘクタールずつ、つまり 100 メートル・100 メートルで区切って、全部真ん中に碁盤の目のように道路を通して、出荷しやすいようにして、田んぼには上から水がだんだん下りてくるというのが普通ですけども、下から上がってくると。「はあ、下から上がるんですか」「もともとはどんな植物も根から水を吸い上げてくる。だから下に水があった方がいい」「はああ」というようなもので、そして稲を刈った後は、ここは畑にすぐできると。そして周囲を、これ揚水式、要するに地下水を活用した田畑の使い方を導入したら、その生産力が 7～8 倍に上がるんです。今落ち着いて大体 3 倍ぐらいになっている。で、お坊ちゃんも一緒にやっぺらっしやると。僕は彼が先生だと思いましたね。名刺見たら農業経営士と書いてあったんですよ。

ですから農業経営士、そういう人たちがいらっしやる。そういう自覚を持っていなくても、もうちゃんと学校で教えている人がいるわけです。そういう人たちが先生だと私は思うんです。

そして菊川の農家さんは、田んぼをどういうふうにつくるか。100 メートル四方でないと物を運ぶのが大変だと、座学をしている役人はわからんと、怒っておられましたよ。私は怒られているような気がしたわけです。私はここに来ているので、言われていることが目の前でわかるんですね。

唯一の問題はジャンボタニシでした。ジャンボタニシが稲を食らうんです。だけど、それは食べられるというんです。どんなふうにしたらこれをおいしく食べられるかというのをだれがやっているんですか。食品加工の農業高等学校の子供たちでしょう。ですから今は和食という世界無形文化遺産を我々持っているわけです。材料も日本一です、ここは。ですから売りに出せる。ですからまさに私は農業はフロンティアに今いるというふうに思っています。その最も代表的な顔がここにいる発言者 1 さんですので、以後よろしくお見知りおきを。ありがとうございました。

後継者問題は一緒にやっぺらっしやましよう。こういう本当に体で覚えた学問こそが本当に役に立つというふうに私は思っておりまして、これを励ましていきたいと、明確に繰り返して宣言させていただきます。

それから発言者 2 さん、本当に大変ですね。ピチャカマジカなんておもしろいですね。何となく発音もおもしろいし、ドラえもののポケットですか。それで御自身も非常に苦労されている中で、こういうピチャカマジカの試みを始められたと。ポイントは居場所をど

うするかということだと。じゃあみんなで居場所をつくれればいいですね。

きのうデンマークまきばの家へ行きました。これは今虐待されている子供が増えているんですね。それでそれをやめましょうというキャンペーンをやっています。そういう数字、統計を見て知っているということと、現場に行くと、先生から、たまたま今学校に行っているのが留守だったのでお聞きすると、何か鬱積しているものがあって、ばあっと出てくると。いじめられて、いじめられて、いじめられて、苦しみや悲しみや怒りがばあっと出てくる、そのいろんな事例をお聞きしまして、それと比べてみると、このような素晴らしいお母さんを持ったお坊ちゃんの恵まれた環境を思うわけです。下を見ればきりがないと。もちろん上を見ればきりがありませんが、その居場所をつくることぐらい何でもないとすら思います。

周智高校の跡地にもそういうところを、一生懸命なさっておられますけれども、そういう子供たちが静岡の駅前ところで1年に1回ピアノを弾いたり、あるいは人形劇をしたり、いろいろなことをしてその能力を發揮している。古くは掛川のねむの木で子供たちがすばらしい芸術的な能力を持っているということが明かされていますね。すべて人間に感性があって、それを表現する力を上手に教えさえすれば、もうとても普通の健常者には気がつかないような世界を描いてくれるんだということで、すべて能力があっても、やがて生病老死で、どんな事故やどんなことでみんな弱っていきます。ですから障害を大なり小なり持っている。100%健常者の人はいませんし、100%身障者の人もいないということで、みんなその中間にいるので、健常者と障害のある方が一緒に暮らすと。一緒に子供のときからそういう人たちがいるのが当たり前だというふうにするという、その工夫が今必要で、それがこの居場所が欲しいという言葉になってあらわれているので、そしてこれが1つで、これはいろいろ地域において、静岡と浜松にあって、こちらにはまだ十分でないということなので、それぞれの地域に行きやすいところにつくる必要があるということでもあります。

それからまた3.11の大災害でいろいろなことを私たちは学びました。例えば小さなお子さんを抱えている若いお母さんは、なかなか避難所に行けないというふうなこともあって、そういう人たちをどうするか。言うまでもなく身障者やあるいはお年寄りが、そういういろんな障害を持っている方たちをどのようにして避難するかということは、問題として知っていますけれども、福祉避難所というものがありますかと言われて、まだまともに考えてなかったということがあると思います。

ですからそのPRが十分ではありませんということなので、これは福祉避難所というもの

がある。それをどのように多くの方々に、その問題を抱えている方々にお知らせするかという、これはPRと、それから逃げる時のルートだとか、そうしたあなたがどういう責任を持つかということに尽きると思います。ですから福祉の対象になっているような方々の避難所というものを持たなくちゃならないことはすぐわかりましたので、それらについてもどうするかということに対処したいと存じます。とりあえず以上でございます。

<発言者3>

皆さん、こんにちは。本日は森町から参加させていただいていますSRクリーンの会の発言者3です。

私どもの取組は大きく3つありまして、今日の題材のレールクリーン事業というのをやらせていただいているのと、あと県の土木事務所さんといつもさせていただいている天方道路、主に県道の清掃になるんですけれども、第二東名がつながって、森掛川インターから小国神社の方に向かう途中の3キロぐらいの県道の清掃をやらさせていただいております。

あと森町の一宮地区というところで里山を守ろうという会がありまして、その方たちと一緒にその里山の草刈りを手伝ってやらせていただいています。きょうは主にその中のレールクリーン事業について報告させていただきたいと思います。

皆さん御存知のとおり、天浜線は掛川から新所原までつながっている中で、森には4つの駅があり、戸綿、遠州森町、円田、遠江一宮と4つあります。その中で私たちグループ会社が接続している遠州森町の森町病院のあたりになるんですけれども、その路線の清掃、草刈り、芝桜の植樹をさせていただいています。

きっかけは、それこそ本当に何か地元で地域貢献できることがないかなと会社の中で考えていまして、なかなかいいことがなくて、森町さんに相談したところ、そういう制度ができたということで、ちょうど4年ぐらい前ですけれども、御紹介いただいて、天浜線さんと森町さんと我々グループで同意書を結んで活動させていただいています。

今年も2週間前の5月17日にグループ会社で、約30名ぐらいで今言った3つの活動を行いまして、本年度も少しなんですけれども芝桜を植えまして、延長今120mぐらいいっていると思うんですけれども、遠州森町駅の方に向かって伸ばすことができました。芝桜はもうちょっとシーズンが過ぎていまして、また来年の4月ごろ、ピンク色に線路際がなりますので、地域の住民の方や、その線路の近くを通る方に喜んでいただければと思っています。

ます。

先ほど知事さん森町のことを言われたんですけれども、今森町は新茶が一息ついたところで、これからトウモロコシが発売になります。夏になると太田川吉川筋でも水遊びやキャンプ、そしてアクティ森での体験がいろいろできて、また小国神社ことまち横丁もあり、森の石松の大洞院もあるということで、森にはたくさん見所があると思います。

天浜線に乗ってぜひ多くの方が来ていただいて、知事にはぜひ日本各地、世界各国からより一層来ていただけるようトップセールスをしていただいて、森町がより一層盛り上がって、どんどん発展していくようお願いしたいと思ひまして、私の報告とさせていただきます。

< 発言者 4 >

こんにちは。私、静岡理工科大学の機械工学科4年の発言者4と申します。今日はよろしくお願ひいたします。

皆様、アンケートの中にこちらのパンフレットをお付けしたかと思うんですけれども、御覧になっていただけただけでしょうか。こちら私たち静岡理工科大学の学生フォーミュラの部活動の紹介をさせていただいております。本当でしたら画像ですとか、動画を皆様にお見せしたかったんですけれども、今回はこちらのパンフレットを見ていただければと思います。こちらにホームページもありますので、もしお時間があれば御覧になっていただければと思います。

学生フォーミュラとは何かといいますと、自動車技術会が主催しております、大学生のものづくりの総合力を競う大会としまして、学生たちが小型のフォーミュラカーを自ら構想して設計する、また製作すること、そして走らせる大会の中で、競技の総合の項目を行ひまして、タイムで点数がつくというような大会になります。

こちらの大会、ただ自動車のレースというわけではなくて、学生が車を設計する際にちゃんとコスト、製品性を考えているかどうか、また技術的にどのようなところに注目して設計したかどうかというのを本当にプロの方というか、大人の自動車メーカーの方ですとか、いろんなメーカーの方が審査していただいて、そのすべての項目を評価して点数がつくということで、単にレースではなくて、ものづくりの大会であるということになります。

こちらの大会は全日本学生フォーミュラ大会といひまして、一応全国大会のくくりになっております。皆様、ロボコンですとか、鳥人間コンテストというのは、名前を聞いたこ

とがあるかと思うんですけれども、学生フォーミュラということは大変認知度が少ない大会なんです。

認知度が低いと思うんですけれども、全国で約 80 校の大学生とか専門学校や自動車大学の学生が参加しております。また海外からも 20 チームほどこの大会に参加しております、実はこちらは小笠山総合運動公園、通称エコパと呼ばれているエコパスタジアムのある場所の広い駐車場でこの大会を行っております。毎年、本当に 80 校の大学生と、海外からも多くのチームが参加しまして、9月に大会があるんですけれども、暑い中、皆この大会としては甲子園のような場所で活動しております。

具体的にどのような活動をしているかといいますと、先ほど言いましたように、自動車をまず設計して、製作して、走らせるまで、まず大会で走らせるということはもちろんなんですけれども、その車をつくる過程で、まず材料だとか、その車をつくる資金、また自分たちが活動するに当たって様々なボランティア活動ですとか、イベントに出させていただいてPR活動するというのも全部学生たちが主体になってやっております。ですので、材料を買う予算をみんなで集めたりですとか、いろんな企業の方にスポンサー料をお願いしに回るというようなこともすべて自分たちでやっております。

ただ、私たちも学生ですので、失敗してしまったりですとか、御迷惑をかけてしまうというようなこともあるんですけれども、ものづくりを学ぶと同時に、社会人として、技術者としてどんなことが大切かということも学んでおります。

私はこの学生フォーミュラの活動というものを本当に皆さんに知っていただきたいくて、大学生が、一生懸命車をつくって、失敗しながらもいろんなことを学んでおりますので、ぜひ皆さんにもこの活動を知っていただきたいですし、また今年は9月2日から6日の期間に大会が開催されまして、最終日の6日は土曜日ですので、お仕事のある方もぜひ御覧になっていただければと、入場無料ですので、ぜひ御覧になっていただければと思っております。

また、市民の皆様、県民の皆様の認知度や理解度が高まることで、今後ともこの全国的に貴重なものづくりの大会をずっとこちらの会場でやるということをするにはどうしたらいいかということを考えております。

実はエコパになったのは第4回大会からでして、今が12回大会です。もうそろそろエコパの土地で10年以上続けているんですけれども、今後とも、本当あと何十年も先にこの静岡県の袋井のエコパでこの全国的な大会を続けるためにはどうしたらいいかということ

考えておりました、皆様の認知度、皆様に知っていただいて、見ていただくということと、周辺の設備や、またエコパ内の設備の調整というものを産官学の皆様をお願いしたい次第であります。以上になります。

< 県知事 >

ありがとうございました。今回は発言者3さんと発言者4さん、それぞれ鉄道と自動車ということで乗り物にかかわる御報告といたしますか、すばらしい試みにつきまして紹介をしていただきましてありがとうございました。

ともかく発言者3さん、ともかく草刈りしたり、芝桜を植えたり、森町の町と協働してなさってくださっていると。しかも天浜線の社長は静岡県の役人がやっております、ですから県を代表してお礼を申し上げたいと思います。

天浜線もなかなか赤字で、それで遠州鉄道からエースをお招きしたわけです。その方に三顧の礼を尽くして社長になっていただいた。ものすごくいろいろな試みをされてますね。そしたら、あの天竜で転覆事故がございました。私もう一度その社長さんをお願いしたときの文書があって、見たら、天竜の船下りのことは一言も書いてないんですよ。私は何というんですか、資本を出しているものですから、株主総会の際に行って、その社長さんから御報告を受ける。その報告の中に天竜の川下りのことなんか、一度だって言ったことがありません。

私は株主総会に必ず出席していたんですけども、そうした中でああいうことが起こって、そしてもう天浜線も廃止しようという、そういうことを言う人がいてですね、それでちょっと待ってくださいということで、うちがエースを送って今生懸命やっているんですが、無人駅もありますが、そうした駅を町の方たち、それぞれの地域の方たちが今生懸命盛り立てて、いろんなイベント列車を走らせたり、おいでいただいた方たちを歓迎するおもてなしの気持ちを清掃や芝桜を植えたりなどしてなさっておられるわけですね。

森町には4つの駅もあるということで、ちなみにそばもうまいですね。まだ食べてない人はぜひ一度お食べください。まんじゅうも売っているんですけども、あれは森町のPAでも売ってないんですよ。ですからいろいろ隠れた、それはトウモロコシが入っているまんじゅうですけども、食べてください。

いろいろと、まだ隠れている、地元の人でも知らないようなまんじゅうなんかがございます、今やもう混雑するけれども、日本の森町ではなくて、世界の森町に何とかしよう

というそういうさすがの遠州森の石松を産んだところですね。言うことがでかいです。それぐらい自信にあふれているということがうれしいです。そしてそれを支える森町のSRクリーンの会の方たちが広がっているというのがすごく大事ですね。

何とか天浜線ですね、新東名ができたこともありますし、また内陸側ということもあるし、内陸側を中山間地域で、どちらかというに見捨てられて、だんだん、だんだん沿岸部に行くというのがこれまでの日本の歴史です。それが今内陸側に新しい選択肢ができた。そしてそこはすごくきれいなところだ、歴史もある、文化もある、そして食材もある、花もあるということで、今日本人が求めている本当の幸福が何かということを提供する場があるということなんですね。

そういう意味では、世界の最先端をいっているというふうに私は思っているわけです。しかも静岡県はこういう志太・榛原、中東遠にかけてのところ、世界農業遺産になりましたね、茶草場が。それから南アルプスは来月にはエコパークになりますし、富士山も世界文化遺産になりましたし、来年には伊豆半島が世界ジオパークになりますし、今花博で100万人突破したということでしょう。これは大変なことです。

どう大変かというのは、ちょっと話がそれますが、ちょっとだけ、まだ行ってない人いらっしやいますか。ああ、さすがですね、皆行っているという、さすが森町、レベルが高い。これは1998年、これも大きな大きな不幸なことがありました。95年に阪神淡路大震災があつて6,000人の方たちが亡くなられた。それを励ますために地震のあつた淡路島で、しかも自然破壊をした淡路島。自然破壊したというのは関空をつくるために埋め立てなくちゃいけません。その埋め立ての土砂といえますか土を淡路島の山を崩して持っていったわけです。だからもう殺伐たるものだったわけです。その殺伐したところに花博をしたわけです。800万人来てくれるようにということで、大阪もあるし、神戸もあるし、京都もあるし、やって大成功したわけです。それをもう一度思い出そうということで10年目に80万人の10%、80万人を目的にしてやって、80万人弱の人が10年目に来たわけです。

私どものところは今から10年前に浜名湖で浜名湖花博をやりました。周りがそんなに人口が多くないので500万人を目的にして、545万人来られて、その10周年ということでその1割ということであれば、切り上げたとしても60万人ということだったんですが、60万人でも淡路に並ぶというだけのことじゃないか、抜かないといけない。80万と言ったわけです。ところが80万を超えて100万人にいつている。場合によつたら110、120万にもなり得ます。

そうした中で、あのガーデンパークには石原和幸氏が、ついこの間チェルシーフラワーショー、世界で最も権威のある、100年の歴史を持つ世界の庭づくりでゴールドメダルを取った人、6回目ですよ。緑の魔術師と言われている。ちゃんとこちらへ引っ張って、ガーデンパークでTogenkyoというのをつくって、同じものをここでやったんですから、これをただで見られるんです。ロンドンまで行ったら大変ですよ。ただではありません、すみません、向こうに行くことに比べると。

そしてお花と植物とのコラボレーション、それからフラワーパークの方は女性でしょう。この女性グループと男性グループで2つでやって、そして何よりもお花の力です。たくさんのお花が水辺に咲いているわけですから、ですからついに淡路を抜いたんですよ。だから関西を抜いたんです、自然の力で。そういうところなんです。

ですから、発言者3さんがこれは世界の森町だと、つまり京都を抜いているということを知っているかということをおっしゃられるんでしょう。(笑) そういうわけで、もうそういう若い人のそういう気持ちがいいですね。そういうのは、しかしもう天浜線といっても、まだ赤字から十分脱却できないので、市民全員でしていく必要があると思います。

私はそのためにいろいろと、例えば防潮堤をつくっていると。防潮堤をつくるためにはどうしたらいいか。土砂は阿蔵山から運ぶと。阿蔵山のところに、山を崩すんじゃなくて、ちゃんと阿蔵山神社に、あそこには八幡神社というのがありまして、山の神様にちゃんとお参りをして、あとできれいにしますからと、よしよしという声が聞こえてきまして、そこに阿蔵ヒルズ、ビバリーヒルズならぬ阿蔵ヒルズをつくるというふうに決めています。

お金を不動産にかけないように定期借地、定期借家でやろう。だから全体を人々を上に乗せていくというか、川上の方に持ってくると、そういうふうにしようと。そういうところにこの天浜線という公共の鉄道が走っているんですよ。これを活用するというのもやっていると、この沿線の方たちのそれを支援する活動というのは、もう本当に涙が出るくらいありがたいです。うれしいわけです。

一方、今度は発言者4さんは、自動車部の部長といっておられますけれども、大学始まって以来の女性部長です。しかも部員30人ほどいて2人しか女性がいない。その1人です。そして記録によると何とEV部門総合1位です。全国80校、海外から数十校来て、そこでトップを取ったわけです。そしてものづくりにおける総合力を競うということで、フォーミュラといいますが、自動車を通したものづくりの甲子園なんですね。

第4回目からエコパに来ました。しかしですね、皆さん、自分のところで欲しいと言っ

ているところが関東から来ているんですよ。渡してなるものかということをおもっているわけですが、しかし、それは渡さないという言い方をすると単なる意固地というふうに見えますから、なぜこちらがいいかということをおもわないといけません。もちろん理工科大学がある。ここに勝てるほどのところがありますか、関東に。

そして、すばらしい施設がある、おもてなしもある、食べ物もうまい、来てみんなが楽しい、これ世界性のあるところだということで、ワールドカップも開かれたし、2019年にはそこでラグビーのワールドカップもそこでやるということで、この間日本におけるトップの森喜朗先生が見に来られて、「いいな」と言って帰られました。

ですから、ここを今4回目から12回目までこちらでやってきたわけです。もうここでやるのが当たり前。北海道で甲子園だといっても甲子園になりません。だからフォーミュラはもうここでやるというふうには決めないといけません、決めてくれと言っているわけです。

きょうは若い青年たちが真ん中に陣取っておられますけれども、これがずっと1回目から部を継続して発展させてきた青年たちですよ。この思いを、しかもこれクラブ活動ですから、学校の強制じゃありません。しかも、静岡というのはものづくりのメッカです。世界に知られたメッカです。それは実はこういう若者がいるからだと。それは国際性を持ちますよ。ですからこのものづくりにおける、いわば世界一のレベル、ノーベル賞級とは言わないまでも、そういうようなものづくりにおけるトップクラスのそういう人たちがここで育っていますよということの証なんです。

ですから部長さんが言うように、まだロボットだとか、あるいは文字どおり甲子園だとか、野球とか、それほどにはなっていないけど、日本のお家芸はものづくりでしょう。その学生における世界あるいは日本の選手権が行われているので、ぜひ皆さん方に周知徹底していただきたいと言われているので、私もほかのところを持って行ってはいけません、そのしっかりした理由を皆様方と共有して、このフォーミュラはエコパでやるというそういう伝統をつくり上げたいというふうにおもっておりますから、またもうちょっと女性部員を増えるように努力していただいて、活躍を期待したいと思います。以上です。

<発言者5>

皆さん、こんにちは、初めまして。袋井市の最北部で酒蔵を営んでおります國香酒造の発言者5と申します。國の香と書いて「こっこう」と読みます。明治憲法が發布されたときに記念して名前をつけたと聞いています。私で7代目になります。

昔はどの蔵でも東北、また北陸から出稼ぎに来た人たちが蔵人として蔵に寝泊まりして、親方、いわゆる杜氏さんを中心として酒づくりをしていたわけですが、現在は県内の半分
の蔵元で社員の蔵元がみずから酒づくりをしています。

私自身、酒づくりを始めて今年で21年になります。もともと静岡県は日本酒の後進県だ
ったんですが、約30年前に県の当時の工業技術センターで静岡酵母が開発され、以来、飛
躍的に資質が向上し、「吟醸王国静岡」として知られるようになっております。

そんなところですが、県に提言と申しますか、知事をお願いといいますか、第1に、先
ほど申しました県の技術センター、今は工業技術支援センターといいますか、そちらに酒
づくりのプラントがあるわけですが、現在はあまり使われてないんですね。ですので、知
事にもう少し発破をかけてもらいまして、このプラントを使って新しい酵母や酒づくりの
試験醸造をしてもらいたい。人はいるんですが稼働していないというのが現実であります。

2に、県産の酒米に「誉富士」という銘柄の米があるんですけれども、やっと最近軌道
に乗り始めてきました。それを継続的な今後も御支援をよろしく願いますということ
です。

3に、これは知事さん個人に対してということだと思んですが、毎年3月に県の新酒
の鑑評会というのが葵タワーで行われるわけなんですけれども、私が知る限り、何といいまし
ょうか、最高の賞に県知事賞という賞があるんですけれども、県知事さんがお見えになっ
てくれてない。(笑) もちろんお忙しいのは十分承知の上なんですけれども、何となく恒例化し
ているという気がしないでもない。ぜひ御出席いただいて、この機会を楽しんでいただい
たらなと思います。

続きまして、地域の問題点。私の住んでいるところは袋井の最北部、三川というところ
なんですけど、地域内ではいろんな活動が盛んであり、住民の活気があふれていると思っ
ております。ですが反面、他の地域から移り住む人にとっては負担になっているようで、地
元を離れる人が少なくない状態です。というのも、人口が少ない割に、地域活動が盛ん
ではないかなと思うんです。というのは、1個人に対する負担が大きいんですね。それを事
前に察知されて、なかなか移る人たちが少ないかなと、そんなふうに地域の中の人たちは
思っている方がおります。

そこで、どうしてもらいたいかということなんですけれども、中間的な田舎の規制緩和
ですね、いろんな意味での規制緩和。ここに袋井の市長もお見えになりますが、それと各
種団体に対する補助金、これだけではなくてですね、人材を通してのもっと知恵というか

アドバイスを、先ほどの知事さんの話を聞いていると、いろいろありますけれども、そんなふうなことを求め、地域活性化につなげていきたいなと思っております。以上です。

<発言者6>

皆様、こんにちは。発言者6と申します。茶道家です。茶道と申しますと、皆さん何となく敷居が高いと思われる方が多いと思うんですけど、そういう枠を取りましてお茶の文化を茶産地の皆さんと楽しみたいという活動を国際的にも、市民講座としてもさせていただいております。

袋井茶文化促進会というのを袋井市と協働事業で今させていただいております。例えば袋井のお茶産地や歴史をめぐるマップづくりをしまして、今年8月に市の方でバスを出していただいて、皆さんぜひ参加していただきたいんですけども、茶産地や歴史を巡る「テイツアー」を企画しております。

あとは袋井市の「心と体の健康都市づくり」というのがあると思うんですけども、それがお茶ということを通してできないかということで、お茶料理、食とお茶を考える講座なんかを市民向けに月1回ぐらいさせていただいて、その冊子を去年農水課さんと一緒に発行させていただいたりいたしました。

その袋井茶文化促進会の一番のメインの活動は、年1回、1冊の『茶文化ふくろい』という冊子をつくろうと。袋井のお茶を全国の図書館で『ふくろい』『ふくろい』『ふくろい』と見えるところに置いていただいて、お茶の産地としての歴史紹介とか文化紹介をしていくということを目的につくりました。

この中で今年のメインは、実は知事にもちょっと関わりがあるんですけども、お茶の文学賞というのを袋井で立ち上げました。多分お茶の文学賞というのは日本では初めてだと思いますので、世界初の文学賞じゃないかなと思います。これを立ち上げるときに、私は静岡大学の非常勤講師として、お茶の授業をさせていただいたことがあるんです。

そのときに学生さんの課題に、若い方にお茶を売るにはどうしたらいいでしょうかというような課題レポートを出したときに、生徒さんから短編小説、お茶を題材にした短編小説が1通届いたんですね。そしたらみんなが見て、ほろりと泣いちゃうぐらいいい感じだったんです。

お茶ってすごいなということに気がつきまして、じゃお茶の文学賞を立ち上げたいということで、県の緑茶協会というところにお話を持っていったら、実は知事もいらっしゃる

理事会で、小説はちょっと無理だろう、短歌とか俳句の方がいいんじゃないかと言われてまして、却下になってしまったんです。(笑) たまたまそれをいい企画だと言われてまして、そしたら袋井市でやってくださるということになったので、これはやっぱり地元の方が動きがいいものですから、袋井の方から発信することができました。

でも、袋井の茶農家や茶業者さんに行くと、来ない来ない、来ても全国で5通ぐらいだろうと言われてました。でも私は信じていたんですけど、今に見ておれと思っていたんですが、3カ月ぐらいの応募で、しかもインターネットを通じてだけ。予算がなかったものから広報できなかつた。チラシもつくりませんでした。

でも結果、ふたを開けてみたら200通ぐらい。北は北海道から九州まで、10代の方から80歳以上の方まで応募してくださったんです。おもしろかったのは、県内応募は数十通で、ほとんど県外から来たんですね。お手紙をつけてくださった方もいました。「茶産地静岡、ぜひ盛り上げてください」とか、そういう一言をつけてくださった方もいらしたんですね。

私たちは意外と見落としているんですけども、県外の方とか世界の方もそうなんですけれども、お茶ってものすごいパワーを持ったものじゃないかなと改めて思っております。私は歴史とか文化をお伝えする立場なんですけど、こういう言葉もあります。お茶っていうのは奇跡の植物だ。食べ物にもなります。歴史的には薬にもなりました。お金として流通していたこともあったんですね。馬と交換したりとか、そうやって最後には歴史にあった農産物ってほかにないですよ、というお話もありました。世界のいろんなことを学べる、いろんな可能性を持ったものがお茶なのかなと思っております。

そこを今日は訴えたいかなということと、もう1つ、県の昨年度、明治・大正・昭和初期の茶業遺産、茶道産業遺産の調査を担当させていただいたんですけども、そのときにやっぱり茶業というのはどうも新しくしていくことが産業の発展になりますので、製茶機械、工場、あと研究資料なんかも捨てちゃうんですね。あるところなんかは海外向けに日本茶を紹介していた広告なんかすごいいいものがあったんですけども、全部燃やしちゃった、ないよと。全部資料が何もないということもありましたので、ぜひ、もちろん県の方でそういった調査をしていただいて、資料を収集するような場所を設けていただけるとありがたいと思うんですけど、私はまた県にそっぽを向かれても袋井の方が何かしてくれるのではないかなと期待しておりますので、きょうは市長もいらしてくださっていますので、今後ともお願いしたいと思っております。ありがとうございます。以上です。

<県知事>

さすがに袋井を代表する発言者5さんと発言者6さんですね。男女ペアで、もう静岡県から独立しているというような、そういう非常にうれしい文化力のある方たちのお話を聞きまして感じ入った次第でございます。

発言者5さん、明治20年代からずっと明治憲法がされたことを記念して「國香」と、これが1880年代ですから、もうこれが100年以上で今7代目、御自身も杜氏としてしっかりとした技術をお持ちで、21年、こういうお酒造りをしてこられたということで、もう敬服しております。

お願いがあると言われたので、もっと飲めと言われるのかと思って、待ってましたと。鑑評会に来ていないと。鑑評会に来たときに、何で僕に言ってくれないんですか。そのスケジュールが最優先です。今その日暮らしでやっております、翌日のスケジュールは、その日の午後5時か何時ぐらいの間にいただいてやっているということで、いずれ鑑評会があって、それは行きたいですねと言っても、先ほど言ったように、それがいつ来るかというのはわからないんですよ。そんなわけで大変御無礼をいたしました。きょうはここにスケジュール管理の者が来ておりますので、来年3月の鑑評会には必ず参りたいと思います。

それから静岡酵母、もともと県の職員だったんですけども、おつくりいただいて、彼は独立されているんですね。なかなかああいう傑物に匹敵するような人が後に続かないというのが残念ですが、工業技術支援センターの酒づくりのプラントがあるということなので、これをもし遊休しているのであればちょっと恥ずかしいので、早速これどのような活用ができるのか、検討させていただきたいというふうに住じます。

それから本県のよさというのは3つ、もちろんこの静岡酵母ですね、それから独自の南アルプスの水であります、あるいは富士山の水というのがございます。そしてお米なわけですよ。先ほど発言者5さんが言われましたように「誉富士」というお酒をつくるためのお米ですね、酒米というものの開発に成功したわけです。これを「山田錦」に匹敵するようなものにしようと。山田錦は兵庫県の加古川の上流域で栽培されているわけですが、あそこは御案内のように瀬戸内海ですから、あまり台風によられないということで、かなり丈の高い稲になっておりますが、こちらはそういう台風にも襲われかねないので、したがって丈が低い。そしてかつ酒米ということで、それに成功して、それを何と名付けるかということで「誉富士」と名付けたわけです。

その「誉富士」のマークといますか、これもやはりデザインしなくちゃいけません。これも無料です。だれがやったか。静岡文化芸術大学の学生がやったわけですね。多分お酒の1本ぐらいあげたんじゃないでしょうかね。それで表彰状とそれで済むと。何かデザインしたければ、静岡文化芸術大学デザイン学部がありますから、そして大学院もあるんですよ、デザイン研究科というのがあるわけです。

デザイン研究科、デザイン学部、御中で、これについてデザインを考えてくださいと。いいのがあれば1等賞は「國香」、2等賞は袋井のメロン、どちらも高いですか。あるいは季節によっては森町の次郎柿、あるいはトウモロコシとか、そういうふうに差し上げる表彰状と一緒に青年たちがもらうと、これは学校にとって誇りですし、青年たちにとっては、社会に貢献した仕事をしたということですので、そういう形で東京や、あるいはどこかの有名なデザイナーに頼むとお金が取られるだけですね、地元のことを知らないから。だからこちらに来られるためにも、若い青年たちが地元を知るといふこともありますので、そしてその「誉富士」という商標マークを取ったこれが今貼られているのが24の蔵元、もうほとんど静岡県全体になっているわけです。ですから私もこれを誇っていいと思っております。自分たちのお米、自分たちの水、自分たちの酵母、この三拍子そろったもので静岡のお酒ができていくということなわけですね。

そしてお酒と、それからまたお酒を飲み過ぎたら翌日には一杯お茶を飲めばすっと気持ちがいい。そのお茶の名人が発言者6さんです。この方は実は英語ペラペラなんですよ。ですからこういうお着物を召されて、ニューヨークなんかに行って、外国人相手にお茶の心とお茶の作法を教えることのできる人、私は袋井の人だと思ってなかったんです。静岡の財産だと思っていたので、さすが袋井ですね、何でもある。

それでお茶の文学賞について、そんな無礼なことを言ったのは、本当に失礼をいたしました。そんな深刻な、それで見放されたということなら、どうぞお見捨てなく。それで、ただ文学というか、もともとお茶について最初に外国で知られたのは茶の本ですからね、しかもこれ「The Book of Tea」ということで、英語で書かれた岡倉天心の本であります。ですからお茶は何も短歌とか俳句とかいうことだけでなく、小説や評論や、いろいろな形でそれを御自身の人生と照らし合わせて発表する、これは文字どおり日常茶飯事で、お茶は身近にあるものですから、表現の方法はいろいろあっていいということで、今それが成功していると。

それからフットワークが軽いというのは、袋井市の方が軽いんじゃないかと言われたの

は非常にいいですね。この間モンゴルが日本政府がフットワークが重いので、モンゴル政府と私の方との間で対等の覚書に調印しました。我々の方がフットワークが軽い。それは同じように基礎自治体の方がフットワークが軽いに違いありません。そのときに上をお願いする、上をお願いするというふうにして、結局これはちょっと国に検討をお願いしてまずと言っている間に全部先送りになりますから、そういうときに自分たちのところでやるものならやってみましょうということでやるというのが、これがやっぱりいいですよ。そういう文化が根ざしているというのがすごくいいですね。

御両者ともそれぞれお酒とお茶という飲料でありますけれども、これはやっぱりお茶で飲んでいてもあれですけども、お酒だと料理と一緒に、お茶も料理と一緒に、あるいは寿司と一緒に食べると、飲むということにありますので、やっぱり食というものと両方結びついた、だから食文化の高さというものが、実はお酒、お茶にあらわれているというふうに見るべきだと。

そして和食の世界無形文化遺産を昨年の暮れに日本は勝ち取りまして、そしてそれがエッセンス。そのエッセンスが旬の食材を日本人は本当に大切に、きれいな盛りつけをして、季節に応じた、またその食材に応じたお皿や器を準備して目で楽しむ、かつ新鮮であるということを通して、安心しておいしいものがいただけると、こういう食の文化というのを届けたわけですが、これが一番食材の多いのが静岡県なものですから、それと不可欠な一緒に要る飲料が、フランスですとワインでしょうけれども、日本ですと日本酒と、それからお茶だということなわけですね。

ですから、このお茶とお酒だけを励ますのではなくて、私は食と一緒に励ましていくと。これはもう日本の文化として世界に売り出すことができる。本当の最高の世界標準の文化を味わいたいと思うならば本場に来ればいい。本場はどこかというところだということになりますね。そういう形で、もう東京を相手にするとか、名古屋だとか京都だとか大阪ではなくて、もう世界の中の静岡県という、世界の中の袋井、世界の中の森町というような観点で、地球全体を相手にしてやろうと。ミラノ万博は来年ですね。我々はそこに食が中心なので打って出ます。当然袋井のメロンであるとか、あるいは日本酒であるとか、「國香」とかその他ありますので、もちろんお茶もそうであります。そうしたものとあわせて、世界にほんまもの日本、これを売り出していきたいというふうに思っているんですよ。

特にお茶は今やや価格が低迷したりして元気がないということもあるし、特に鹿児島からの追い上げがありますものですから、何となく追われる方は辛いでしょう。ですからこ

こでもっと大きな地平に出るためには茶の都をつくってしまおうと、いわゆる「茶の都」として登録をしてしまおう。それをどこと一緒にやるかという中国と一緒にやろうと思っております。中国の浙江省の省都杭州というところは、静岡県の人口より多いです。700万ぐらいいらっしゃる。そこはあそこの13億の民のお茶の都、茶都です。ロンジン茶をつくるところですね。西湖という美しい湖があって、それは世界文化遺産です。そこが茶都といっている。茶の都。そこと一緒に私は登録してみたいと思っているんですよ。世界を相手にする。

そして皆様方、中国のウーロン茶とか緑茶をお飲みになられると、もう800年の、いわば日本独自の発展があります。日本のこの風土で作り上げてきたお茶というのがありますので、同じ緑茶といっても全く違います。もちろん飲み方も違いますね。もちろん水も違いますし、ですから一緒にやれば、中国のロンジン茶と、例えば袋井のお茶、森町のお茶、あるいは春野のお茶と飲み比べると味が違いますよ。だからそれは選ぶのは向こうの勝手です。向こうというのは消費者の勝手です、世界の。

だけど、こちらだけで行くと緑茶、グリーンティーだ。わかりにくいです。ですから向こうのグリーンティーとあわせて飲んでみて、和食に合うのは言うまでもなく日本茶ですよ。ですから和食が世界無形文化遺産だと。こちらの新鮮な食べ物、見事に美しく調理がされたものにはお茶とかお酒がよく合うと。その場に日本の食には日本のお茶がよく合うということを書いてもらわないとわからない。

だから今まがいものが世界中でグリーンティー、健康にいいということで飲まれているんですけど、そうしたときにはどうせなら、下のものと比べていいでしょうと言わなくて、中国人がティーのふるさとですから、お茶のふるさとですから、そこと最高のところと比べて、800年の歴史で優に追いついて追いついて抜いているでしょうといつか、あるいは少なくとも違いがあるでしょうと。それをどうぞ皆様方の御意志で御享受してくださいというふうにしていこうと思っておりますので、そうしてなったときには、横文字しか話さない人も来るし、それからイスラムの宗教を持っている人も来ますので、イスラムの人が来たときには、これは豚を使ったものとか、豚を切った包丁を使ったもので料理してはだめなので、ハラルのあれは和食とぴったりですよ。ぴったりなんですよ。だからイスラムの全人口は全部和食でとったという感じで、したいと思っているわけです。そのぐらいのつもりで世界無形文化遺産ですのでやりたい。

ちなみに、ここに来る前に、あれ袋井だと思んですけど、日研フードというところに

行ってきましたよ。日研フードは今年 50 周年だそうですよ。そしてその日研フードを創設した人は大阪の人だそうです。大阪の人が世界で最も美しい工場をつくりたいと、公園のような工場をつくりたいと、どこを選んだとかという袋井だったわけです。

あそこはもう食い道楽ですから、そこでその方が食の天然の調味料 900 種類、これをつくっている。その周りは公園のようにしてある。ハーブを植えたり、お茶を植えたりいろんな植物、野菜もつくられている。それをいろいろ加工されて、いろいろな食材に、隠し味といいますか、少なくとも会社の名前を出さずに、ほとんどすべての食品に入っているのが日研フードです。それがどこにあるか、あるいはどこを見つけたかという、日本のど真ん中だと、ここだというわけです。

実際周りが非常にきれいでした。そしてもう建物のど真ん中にきれいな自然光が入るように吹き抜けになっていました。そういうところをもう既に半世紀近く前に、ここを選ばれているわけです。そして世界にそういう、例えば醤油の粉末ですよ、醤油の隠し味にフランス料理なんかにも使われていますよね。そういうものをここでつくっているわけです。私は本当にここは食材の王国であると同時に、食の都足り得ると。

私回ってみて、菊川だ、気がついたらもう御前崎だ、気がついたら袋井だ、森町だと。ですから、もうそれぞれの袋井のアイデンティティーといいますか、誇りみたいなものを、今発言者 6 さんの話を聞いたらよくわかりますし、袋井ということで、森町も森町で持っている。そういうものと同時に遠州としてまとまるというアイデンティティーをお持ちでしょう。やっぱり大井川の向こうとは違うという、そういう意味では、また静岡県だというアイデンティティーもある。日本人だというアイデンティティーもある。そのように、あるいはアジア人としてのアイデンティティーもありますでしょう。

そういうふうなアイデンティティーが重層的にありますので、私は遠州全体いろんな意味で協力関係をつくられて、しかしアイデンティティー、個別のアイデンティティーは誇りとして失わない。地域性をしっかりと持っている。だけど行政同士がそれをけんかするようなことがあってはならないし、地域の自分たちがそれを支えているので、食の都は世界の財産にならなくちゃいけないので、そういう市民性といいますか、これをこの地域で培うときが来たなと思いますね。

花の都、食の都、お茶の都、山は富士、お茶は静岡日本一、こういう地域をつくっていきけるというのを今お二人の男女共同参画の静岡県からの独立宣言を聞きまして思った次第であります。ありがとうございました。

< 発言者 4 >

先ほどすごく全国的にもこのエコパの場所をというふうに言っていただいて本当にありがとうございます。

ほかの地域に移さないためにも、まず競技者のコースの安全のためといいますか、あと今回世界シリーズの日本戦ということであるんですけれども、今現在コース全体の長さが世界シリーズより少し短い状態となっておりますので、そのためコースを広げていただけるようなというお願いになってしまって申しわけないんですけれども、その辺が全国的にも、もう絶対エコパでというような確保するためになるんじゃないかなということを思っております。

あと、すみません、宣伝になってしまうんですけれども、7月の中旬に県庁でも私たちの車両を展示しますので、県庁なので静岡市内なんですけれども、もし皆さんお時間があれば御覧になっていただきたいと思います。

< 発言者 2 >

ピチャカマジカなんですけれども、袋井市の方々といろいろつながりを持たせていただいているんですが、ここにいらっしゃっている方の中にも、そばうちができるよとか、風呂がつかれるよとか、お祭りの笛が得意だよとか、写真が好きだよとか、楽器が弾けるよなんていう方、声をかけていただければと思います。いろんなつながりができて、障害者は普通の子とあまり変わらないんだ、ちょっとゆっくり教えればすごく上手になったりとかもしますので、もしボランティアとか関心がある方はぜひ声をかけていただければと思います。

あと袋井市長さんにお礼というか、ありがとうございます。私の所属している団体ではないんですが、毎年ママと笑ってという団体で、ここの月見の里で映画上映会をやって、障害者の啓発活動をしているんですけれども、毎年本当に予算がなくて苦しい状況で、私もちょっと手伝わせてもらったりしているんですけれども、今年はたくさん予算とっていただいたということで本当にありがとうございます。

それで、袋井市は磐田や掛川にはないすべての小学校に支援級、何回も教えないと勉強ができないとか、ゆっくり説明しないと理解ができないお子さんのための教室が袋井市すべてにあるということに本当に感謝しています。ほかの市町では兄弟でも別の学校に通わなければいけなかったりなんていう不便が出てきますので、ぜひこの支援級、なくさない

てください。よろしくお願いします。ありがとうございます。

<県知事>

今発言者4さんと発言者2さんのお話を聞いていて、ここに座っている人は、袋井市長ではないかと思います。コースを少し世界標準にするのも大丈夫だよと首を縦に振っておられますし、発言者2さんの願いについても大丈夫だよというふうに言われているので、どうも頼りにしています。(笑)

<傍聴者1>

袋井市の傍聴者1と申します。69歳ですが、最近市でも静岡県の公教育の問題に対して県の次長といろいろやっているという話を聞いております。新聞によりますと、県の義務教育の国民1人当たりの費用が全国でもかなり下の方にあるということを知っておりますが、そこら辺は知事はどう考えますか。

<傍聴者2>

1人1つですか。3つありますが、知事、今日は来ていただいてありがとうございます。24時間1年365日、県民のために今日もまたありがとうございます。多少は奥様のためにお時間をお使いになっていると思いますけれども、それから後ろに静岡県らしい富士山と茶畑と飛行機がありますけれども、3つあるうちの1つだけに絞って。

前にしゃべったことがありますけれども、飛行場ですね、富士山静岡空港でしたか、外国人向けに英語ですとマウント・フジ・シズオカ・エアポートでしたか。私の考えだと、世界的にも、あるいは国内的にも、それこそ富士山空港、あるいは外国人向けにはフジサン・エアポート、これのがわかりやすいかなと思ひまして、私のひとり言でございます。最後になりましたけれども袋井市に住んでいる傍聴者2と申します。ありがとうございます。

<県知事>

大事な質問をそれぞれありがとうございました。傍聴者1さん、子供に対する教育費が全国で低いというふうに言われましたね。それは先生に給料を支払うわけですが、今静岡

県は全部 35 人以下学級です、中学 3 年から小学 1 年まで。これ全国で最初ですね。

例えば長崎というのは、ものすごくたくさん離島があります。例えば五島列島の小学校がある、中学校があると。そこに行かれますと、小学校は 7, 8 人しかいないとか、例えば中学校は私が行ったところは 1 人しかいない。しかし 1 人しかいないけれども、国語も英語も算数も理科も社会も体育も保健も音楽も図工も皆教えないといけない。校長先生もいなくちゃいけないわけです。そうすると、その 1 人に対してその 10 人近い先生方がそこにいらっしゃるわけです。そうすると、そこでの教育費は高く見えますね。

しかし、1 人ですから、上級生がいない、下級生がいないということになるので、子供にとって本当にいいかどうか。僕はその子供に会って、中 3 の男の子でしたけれども、将来どうするんですかと言ったら、何か人のためになるために福祉の学校に行きたいと言っておられましたが、いい教育をされているんだと思いますが、比較することができないと。

静岡県は非常に万遍なく、もちろん限界集落のようなところもあって、しかし離島というのは初島しかありません。そこにもちゃんと小学校が、120 ぐらいの世帯があるんですけども、それなりの学校、集団教育ができるようになっているんですね。そうしますと 1 人当たり、つまり教育費というのを離島と比べてこちらは低いじゃないかというのとちょっと違うでしょう。ですからもう少しお金のあり方については、単純なことだけでやられると違うと思います。私どもの恐らく教育費というのは、上から数えた方が早いんです、全体にかけている教育費というのは。

今、正確に言える人がいますか。この件について、同じような質問を 1 年ほど前に受けまして、それに対して明確に『県民だより』にお答えしてございます、そのときに。ですから上から数えた方が多かったと思います。ですからちょっと誤解があるということで、今の離島の例と、ちょっと極端な例ではありますけれども、比べていただきますと、離島における教育費は 1 人当たりものすごく高いじゃないかと。こちらは 35 人学級で、それなりにグループ活動ができるし、運動会、学芸会、チームプレイもできるし、そういう意味では割といいですよ。

それから今言われているのは学力テストですね。国語と算数について受けさせると、結果は教育委員会しかわからないというような実態だったので、それは違うでしょうと。例えば傍聴者 1 さんがちょっと調子悪いなど、あるいは健康でも検査に行かされると、健康診断に、そして先生から、「まあ人と比べて最低だけど大丈夫だよ」と、「勉強すれば」「散歩でもすれば」、そんなこと言われたら、「どこが悪いんですか」と、自分が一番気になるは

ずじゃないですか。

子供のときには、背丈が伸びる、1 cm伸びた、2 cm伸びたとか、走りが少し速くなったとか、そういうようなことは普通に言いながら、ある事柄についてだけ、君は勉強ができないとか、できるとか、それを国語と算数だけでいうと、国語と算数だけが能力ですか。人間は顔も違うように皆違う部分を持ってますよ。ですから、そんなことをもって、つまりわざわざ国語と算数の1回きりのテストをもって、何か固定化したというのは全くナンセンスだと私は思っております。

そして最低になってだれが慌てましたか。先生ですよ。もう先生が慌てて、そして一生懸命今やっているじゃないですか。塾の先生で、受験の産業のトップだった方が、いかにしたら点数が上がるかというようなことを今教育委員長として言うておられますよね。そして今度も受けるというふうにおっしゃっていますけれども、点数を上げることに御関心があるわけですがけれども、私は、そうですね、少々国語ができないといっても、音楽をよくわかるとか、走りが速いだとか、あるいはすごく人柄がいいとか、そういうことでいろんな能力というものはそれぞれ違う。

ましてや今オリンピックがこの間ソチであって、15歳の少年が銀メダルをとったり、本当に10代の子がヒーロー、ヒロインになる。私は国語と数学だけで能力を見るという形で子供を決めつけるというのは間違っているということを言いたいわけです。

ですからいろんな能力があるし、そのときそのとき、この程度だということは自分が一番よく知っているはずなので、それを正確に知って、あとはそれが何か固定化しないようにすればいいという考えでおります。

それから傍聴者2さんのマウント・フジ・シズオカ・エアポートというのをフジサン・エアポートにした方がいいというのは本当にそのとおりだと思います。といいますのも、富士山を世界遺産にするときに英語で書かなきゃいけないんですよ、推薦書というのを。これはもう静岡県、山梨県、それから文化庁、学術委員会、すべてが一緒になって、最終的にフジサンとして届けたわけです。マウント・フジでも、フジヤマでもないんですよ。フジサンだったんです。

そういうことなので、ただ空港が開港するときに、あそこは標高132メートルですし、天気がいいと富士山を仰ぐことができます。その意味で富士山空港という名前はまことにふさわしい。周りは茶畑で、しかもそれが世界農業遺産ですから、もう最高の景観ですね。世界のVIPをお迎えするのに最もふさわしい、日本らしい景観だというふうに思ってお

ります。

そのときにマウント・フジ・シズオカ・エアポートじゃ長過ぎるしね、フジサン・エアポートでいいんじゃないですか。それで今静岡県がようやく経営権をとりました。またこれから駅もできると思いますよ。あれ駅をつくらざるを得ないような環境をつくっていきます。そうしますと掛川の方も、掛川市長さんも、つくっても大丈夫だよと、わずか15キロでしょう。だから短過ぎると言うんですが、三島と熱海の距離はどれだけですか。10キロぐらいのところもありますよ。三島と熱海の距離はちょうど15キロです。それは掛川と富士山空港の真下との距離と同じです。ですから短過ぎることはないですよ。

そんなことで、あそこはまた防災センター、大規模な広域防災拠点という位置づけをいただきましたので、今度オフサイトセンター、環境放射線観測センターもそちらに移りますし、20ヘクタールの空き地がありますので、そこを防災の拠点にしなくちゃいけないということで、今まちづくりのマップといいますか、ゾーニングを交通基盤部長が今書いてくれていますので、あとで地元の方にそれをお見せして、どこに出しても恥ずかしくないような、日本の玄関口をつくりたいと思っています。

だからそれはエアポート・ガーデンシティ、こういうことです、ガーデンシティですよ。人の手がちゃんと手入れが入っている自然の中で、人々が生活されているということが説明なしにわかるように、美しいところに降り立たと、美しいところに見送られてそれぞれの母国に帰っていくというふうなところをしたいと思っておりますが、名称については非常に大事なのでいい御提言をいただいたと。私は個人的には賛成です。

<県知事>

今日は1人もお帰りにならないで、それぞれ6人の方々のすばらしい御提言や、また活動の御報告、そして県政、あるいは市への御要望、皆それぞれもったもなことだったというふうに思っております、そしてお聞きしていると、いわゆる単なる嘆願みたいなものはないですね。レベルが高いと思います。今日はちょっとすごいなと感心させられる御発言が続きました。そしてまたお2人の御質問もそれぞれ教育と、それからこれからの日本を担う空港についての御質問でございましたので、大事なことに関心を持っていただいているというふうに思った次第でございます。

今回、いわゆる移動知事室でこの地域を回っておりますけれども、これからのフロンティアが、日本の新しい産業が農業であるとか、あるいは食品であるとか、さらには豊かな

森ですね。森町のPAもたくさんの県産材を使っております。ちなみにこれからも県産材を使ってまいりますけれども、今度一番最近にできる建物は沼津のプラサヴェルデという千本松フォーラムというものであります。そこは当初は単なる四角四面の建物をつくって、ホテルとコンベンションセンターのメッセということだったんですが、県の最初の考えでは一部マンションにして売って、少しお金を浮かせたいということだったんですが、それを全部白紙にしまして、千本松という沼津の美しい景観に映える玄関口だということで、千本松フォーラムというふうになったんですが、そこで県産材を使うことになったんですよ。

それで千本松ですからどのぐらい使うか。出てきたものを見たら100本だったんですね。ゼロが1つ足りないということで、実際は1,000本近い県産材が使われております。ぜひ見に行ってください。それが全部と言っていいくらい、ほとんどすべて天竜なんですよ。あそこには東部の木材もあるわけですけども、こちらの品質がいいんですって。ですから、そうしたものを活用する。それから間もなく、来年になりますかね、草薙の総合運動場もできます。それから新東名、第二東名の富士山を見る場所、止まって見る場所がないでしょう。それも今1つ候補地ができておりまして、そのこのところにつくるものもそうします。

それから先ほどの富士山空港ですが、今御案内のように、もう手狭になって、どうしても拡張しなきゃいけないと。今のところですと、行かれたと思いますけれども、エスカレーターを上がってすぐ左側のところにチェックインというか乗るところがありますね、そこで検査をされるわけです。そこで見学者の方、それから並んでいる人、それから国内便、国際便、全部一緒なわけです。これは非常に問題だと言われておりますので、それはもう何とか避けるということで、国内便のやつを内陸側のところに、それこそ大体内側から来ますので、ここが玄関口だということがわかるような建物を建てざるを得なくなってきております。それも県産材を使いますよ。

そしてこの建物は相当に木材が使われて、さすがだと思んですが、多くの建物は鉄筋コンクリート、これも鉄筋コンクリートであるはずですが。これは大型木造建築というのはまだできませんので、しかし今は木造を多用していいということになっております。

この間、世界文化遺産になった富士山の世界遺産センターをつくると、これは富士宮ですね。これは坂茂さんという人が何百もの候補の中から1等になったんですよ。選ばれたその2日後にプリッカー賞という建築家におけるノーベル賞を彼が取りましたよ。ものす

ごい人をやっぱり目利きが選んでいるんです。ですからすごいですよ。

この間来られたときにどういうふうにつくるかと。もちろん県産材を多用した、すばらしい木材があるからということなんですよ。もちろん筋交いのところにしっかりと鉄骨を入れるだとか、いろんなことをしなくちゃいけません。だから鉄筋木造というののもあっていいし、鉄筋コンクリートと木造をあわせた鉄筋木造コンクリートであってもいいと。ですからコンクリートできっちり下をつくる、そして鉄もしっかり入れる。同時に使えるところは木を全部使っていくというふうにいたしまして、我々の大地で育った木を使って入れ物をつくる。そしてその中で食事をいただく、お茶を飲む、こちらの水で名人がつくった酒を楽しむというふうな形にして、文字どおり全部地産地消をしていくというようにしていきたいと思います。

それがどこにできるかという、浜松の市街地のところでできますか。できないですよ、壊さないといけませんから。静岡の市街地でできますか。できません。ですから私どもはこれからはそういうところをもう1回やり直すとなると大変なことです。

そのかわりこれからの理想はどこでつくるかといったときに、新東名の近辺はもう自然、自分が手を入れないところも借景として見ると。借景の思想は日本の持っているものですから、周りの景色を上手に生かした、そして木の高さより高いものはなるべく建てないようにする。建物と、それから周りの緑を調和させる。

それはもう一番の人間の基本は家ですから、家を何というか「家庭」、家と庭でしょう。建物と庭が一体で「家庭」なわけですね。そういうものとして常に自然と調和して我々は家庭を営んできたということでございます。ホーム・スイート・ホームのホームという英語には、決してそこには庭という意味はありません。だけど日本の「家庭」には家、建物と庭というのが一体になって、我々の「家庭」ということですから、そういうふうなものの考え方で公共の建物も産業のものもつくっていく。

それを日研フーズは創業者が公園のような、つまり桃源郷のような工場をつくりたいということで1964年に大阪からこっちへ来た。最初の写真を見せてもらったら、もうすさまじいですよ。それはあんな小さなところに、そこに何百万という人が住まわれているわけです。だからビルディングフォレストですよ。そういうところの工場じゃ、やっぱり食品のものはできないということで、どこにあったらいいかという、それと全く対局のところ選ばれたのがここだったんですね。

だからやっぱり外から見た人の目で見ると非常にレベルが高いと。だからこれをどれぐ

らいレベルが高いかということを知るためには外を見なくちゃいけません。ですから森町の道は世界に通ずる、袋井の道は世界に通ずる。あちこち見て、あつやっぱりうちがいいと。こういうふうにしてはだめだというのを見るためにあちこち行く。そのときには富士山空港を使うということで、大いに国際性というものを高めていただいて、自分たちの持っている潜在力に気づいていただいて、そしてこういう名人がいらっしゃいますので、そしてまちおこしのために一生懸命やっぺらっしゃる、障害者のために一生懸命やっぺらっしゃる人がいます。

後継者と言っているこの方自身が 40 歳ですから、60 歳、70 歳のおじいさんが言っているんじゃないんですよ。40 を迎えたばかりの青年が後継者のことを言ってくれる。しかも学校までやってくれるというのでうれしいじゃありませんか。ですから期待が持てるので、そういう人たちと御一緒に、そして女性で世界一のものづくりの自動車で日本一になっているというそういう若い力もあります。ですから自信を持っていただいて、やるのがたくさんあるんだと。

それぞれの職分に応じて、しかしネットワークでやると力もつきますので、その力は相当あるようですので、私どもは側面から森町、それからまた袋井の皆様方、ちなみに袋井はこの間命山、標高 10 メートル、1,300 人、あれも見学者が絶えないでしょう。今あちこちで真似しているんじゃないじゃありませんか。あちらこちらで真似していますよ。ですからそういうことこそ、我々にとってうれしいですよ。袋井の命山を見たか、それを見ないで防潮堤のことは考えられない。早速吉田町が真似したでしょう。吉田公園の中にそういう命山をつくる。そういう丘みたいなものをつくると言っているじゃありませんか。ですからそういう独自の構想でやっていって間違いないんだと。

ただし他を知る必要がある。井の中の蛙であってはならない。小京都と言われる以上、京都には行くというふうなこともあわせてやる必要がありますね。ほかにも小京都と言われるところが日本にあります。あるいは小江戸と言われているところがあります。そうしたところを見て、そうしたものを見ながら自分たちのよさ、自分たち自身が何であるかということをよく知って、その個性を伸ばしていくということです。

私はそれなりにいろいろ見てきました。ですからこのポテンシャルについては相当高いものがあると見ております。だれかが言わないと気がついていただけないということがありまして、ちょっと御無礼なことをあちこちで言っておりますけれども、それは別に他意があつてのことではありませんで、ポテンシャルに気づいていただいて日本一の「ふじの

くに」をつくるためであります。ぜひここからそのような食の都、茶の都、そのようなまた森の都というのができるように祈念いたしまして御礼にかえたいと思います。本当にありがとうございました。